

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401126		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームわかばの家(1F)		
所在地	千葉県若葉区東寺山町399-1		
自己評価作成日	平成23年10月8日	評価結果市町村受理日	平成23年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成23年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・畑で家庭菜園をしており、季節の野菜の収穫を楽しみ調理している</li> <li>・家庭菜園で季節の花等植え、四季を感じられる様にしている</li> <li>・皆で協力し合って、できる事を手伝ってもらいながら生活している</li> <li>・初詣、お花見、一泊旅行、餅つき等、季節を感じられる行事を行っている</li> <li>・「その人らしく」をモットーにその方がやりたい事、行きたい所等を最大限引き出し、支援するよう努めている。</li> <li>・毎日お風呂がある。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自立支援に力をいれており、同法人の他グループホームの中でも特に注目されている。入居者がこれまでと同じように自分らしい暮らしを継続できるよう、丁寧な工夫を積み重ねている。洗濯物は入居者個々の体型に合わせて干しやすい高さを検討し、排泄はそれぞれの間隔を把握し、個別に声かけを続けている。認知症があっても尊厳への配慮を忘れず、一人で散歩に出かける人、酒やたばこなどの嗜好品を嗜む人など自由度が高い生活を実現している。隣接して同法人のサービス付き高齢者向け住宅が2件あり、避難訓練や行事などを合同で行っている。医療との連携も密で、ホームで安心して最期を迎えるための体制を強化していく予定である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・その人らしく ・安らぎのある生活 ・自立支援を理念として掲げ、毎朝申し送り で復唱し、日々のケアに反映できるよう努めている。	法人が事業全体の理念として顧客重視、誠実な心、個人の尊重、責任ある地域市民、チームワーク、の5つを挙げている。毎日の申し送りや会議のたびに言葉にして確認し合い、日々のサービスに生かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	みつわ台地区の運動会やお祭りに参加したり、散歩に行った際に近隣の方へ挨拶をし積極的に声掛けを行っている。	入居者は近隣のお祭りや小学校の運動会に参加してきたが、今年は震災の影響で多くの行事が取りやめになることが多かった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の人から高齢者の相談にも協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・評価などの取り組みや状況などは報告や話し合いをし、サービスの向上に努めている。 ・現状は家族、近隣の方の参加は少ない。	町内会代表や民生委員、地域包括支援センター職員、家族等が参加して隔月で開催している。入居者の暮らしぶりやサービスの現状報告とともに、最近では災害や感染症への備え、見取りのあり方なども議論している。	同時期に行われている家族会には多くの家族が参加している。運営推進会議への参加働きかけが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・地域包括支援センターとは運営推進会議に参加して頂き、連携が図れるように努めている。 ・事例等お聞きし、参考にさせて頂いている。 ・社会援護課と常に相談するようになっている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が出席しており、情報交換を行っている。この他必要に応じて担当課職員に相談等をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を順番で受けており、会議等で他のスタッフに報告することで防止に努めている。鍵をかけないケアを目指しているが、入居者様の安全の為、玄関は施錠している。希望があればスタッフ同伴で外に出ている。	拘束は利用者等の安全確保のためなど、やむを得ない場合を除いて行わないことを利用契約書等で明記している。やむを得ない場合の判断や言葉による拘束については、職員の研修を徹底して行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないようスタッフ一人一人に徹底しており、ミーティングでも確認している。又、社外研修に順番で参加している。		

グループホームわかばの家

自己評価(1F)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は理解しているが、現在ご家族自身で管理されている為、必要になれば支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、必ず施設の生活を見て頂いてから契約内容を説明し、お帰りになられてから再度確認した頂いた上で契約している。解約に際しても本人や家族の納得が得られるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置しているが、今までに意見や要望が寄せられたことはない。しかし、ご家族の来訪には積極的に声掛けをしたり、家族会、や運営推進会議の場で要望や意見等を聞く機会を設け、それを運営に反映させている。	家族会の時やホーム訪問時をとらえ、話を聞くようにしている。出された意見については、運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案がある場合は文書や口頭で聞く機会を設け、運営者と相談の上実施している。	管理者と職員との意見交換はさまざまな会議で行われている他、管理者やフロア長が現場で共に活動しながらスタッフに積極的に声かけをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心を奨励し、研修等の参加にも積極的に勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人の力量を把握し、外部・内部の研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社が経営している他の施設の職員と一緒に勉強会や研修会を行っている。又、外部の研修に参加し、他施設の職員との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接お会いし、不安や希望をよく聞き、記録し、スタッフ全員と情報を共有し合い対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何度も話し合いの場を設け、安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームと決める前に、ご家族や本人に必要な支援が出来る他のサービスも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶を飲みながら昔話や生活の知恵等を聞いたり、縫い物や料理等も教わりながらより良い関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や買物、旅行等、ご家族に協力していただけることはお願いし、ご本人と一緒に支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご家族との関係が途切れないよう、行き来できるようにしている。	ホーム入居前に住んでいた地域の知人や、働いていた元の職場の友人が折々に訪問している。以前から通っていた美容院に行く入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を見ながらリビングでの席の配置を考え、入居者同士の人間関係がうまくいくよう調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても手紙で状況を伝えあったり、状態が安定しているか訪問したり、電話相談等も対応している。 転居されても気軽に来訪できる雰囲気作りをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は普段の会話の中から引き出したリー対一になった時に聞き取るようにしている。入居者の希望は内容によってはご家族の希望も参考にしている。	入居者本人に尋ねるとともに、日ごろの会話や日常生活の状況から、生活の意向や思いをくみ取っている。家族には、センター方式アセスメントシートの「暮らしの情報」を記入してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご入居前にご家族から生活歴を聞き、ご本人からは生活の中で情報を得るようにしている。 ・できるだけ自宅に居た時のように過ごして頂けるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは必ず日報、申し送りノート等に目を通し、一人一人の状況を把握してからケアに入るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のフロア会議にてスタッフ全員で話し合っってプランを検討、作成し、ご家族に確認して頂き、追加項目があれば付け足している。	月1回、フロア会議やリーダー会議を開催し、入居者のカンファレンスを行っている。入居者の状況について、フロアリーダー、居室担当者、ケアワーカーらで意見交換を行い、サービスに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録を毎日日勤者と夜勤者が記録して情報を共有し、ケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出や移送等、ホームで出来る範囲で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域担当の消防署と連携をとり、離設時や火災等に備えている。 ・また近隣のお店等にも挨拶に行き、緊急時連絡や救助の協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関への受診を支援している。 協力医療機関の診察と訪問看護は毎週交互に行われ、緊急時は24時間対応になっている。月1回の訪問歯科もある。	入居者一人ひとりのかかりつけ医または、ホームの提携医に受診している。提携医、提携の訪問看護ステーションは常時、連絡が取れるようになっており、月1回ホームで入居者全員の健康チェックをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・月2回訪問介護をお願いしている。 ・提携病院とも常に連絡を体制にあり、24時間体制の為相談にのってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来る限り毎日お見舞いに行き、早期退院に向け病院側と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・「重度化した場合における対応及び看取りに関する方針」を入居時に説明し希望を聞いている。 ・事業所としては看取りは一件。	重度化や終末期に対する指針が明示されている。家庭的な雰囲気の中でその人らしい最期を迎えるため、家族、医療関係者との連携を密にしている。先ごろ、2件の看取りを行ったところである。今後も、入居者・家族に安心してターミナル期を過ごして貰うため、より一層の体制作りを行っていくとのことで、実現が期待される。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携をしている看護師に、急変や事故等の対応方法について研修をもらい実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災訓練は年2回、消防署立会のもと隣接している施設と合同で行っている。 ・非常時に備え、近隣事業所から協力を得られる様に挨拶や利用を欠かさないようにしている。	キッチンIH利用で、チェックリストを元にコンセントや火の元確認を毎日行っている。定期的な避難訓練を、隣接する同法人のサービス付き高齢者向け住宅と合同で実施している。3月の大震災を受けて備品も充実させた。	火災、地震等の災害対策は常に備えを行い、協力体制作りを続けていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・過ごされている部屋は個室でプライバシーが守られ、入室の際は必ずノックをする様徹底している。 ・トイレ・入浴は扉を閉めて介助している。	認知症があっても尊厳のある暮らしを実現するため、入居者それぞれに常に目配りをしている。居室入口にはのれんがかけられ、室内が丸見えにならないような工夫がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自分から訴えたりしないご入居者へは、いくつかの選択肢の中からご自身で決めて頂いている。 ・ご本人の意思を引きだせる様努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人一人のペースに合わせた食事時間、昼寝等をしてもらっている。 ・食事・おやつ時間は入居者同士がコミュニケーションを取れるよう、ゆっくりくつろげるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外食時は特におしゃれして外出している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者のレベルに応じて、野菜の皮むきや刻み、盛り付け、配膳、片付け等をして頂いている。	手作りの温かい食事を皆で食卓を囲んで食べることを大切にしており、入居者・職員が共に食事づくりをしている光景が見受けられた。胃ろうが検討された入居者も、関係者での入念な話し合いの結果、経口摂取のままでケアをした事例がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の栄養士がバランスの良いメニューを作っており、その指示通りに食事を作っている。 水分量は毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアにおいても、できるところは自力で頂き、できないところを補助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のない様、排泄のリズムをつかみ誘導している。	トイレでの排泄を大切にしており、支援している。入居者一人ひとりの排尿、排便間隔のデータを取り、それを基にトイレ誘導をしている。長期的に声かけを継続することで、パッド等への失禁の率が減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・ラジオ体操や散歩等、体を動かす機会をつくっている。 ・水分摂取量の調整や、おやつに乳製品を取り入れる等して、なるべく下剤を使わないよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を限定せず、毎日でも入れるようにしている。	家庭的な浴槽だがコンパクトなリフトが設置され、安心して入浴できるようになっている。毎日入りたい入居者は毎日利用できる。概ねどの入居者も1日おきに入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない様に一人一人の生活習慣や体調に気をつけ、希望に応じて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬後の症状の変化については職員間で引き継ぎしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の趣味や仕事等を今の生活に活かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・希望には最大限対応できるよう調整している。 ・買い物や外出も、ご入居者の希望を聞いて月に1~2回ほど出かけている。	近所のスーパーやコンビニ等への買物は日常的にでかけている。入居者によっては、タバコや晩酌用の酒を買いに一人で出かけることもある。車を利用しての遠足行事なども定期的に実施している。行きつけの美容院などに行く入居者もいる。	

グループホームわかばの家

自己評価(1F)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理の出来るご入居者にはお財布を持ってもらい自己管理してもらっている。買物の際や自販機でも自由に支払いして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、ご入居者から要望があれば自由に電話や手紙のやり取りをができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・電気や照明も暖かみのある色を使用し、室温も季節を感じられる様調節している。 ・居室の入り口に表札をつけてわかりやすくしている。	木目、吹き抜けの高い天井、よく日の当たるウッドデッキなど、心地よい環境である。外は緑が多く、広い庭では園芸を行っている。リビング、廊下の隅のソファなど、広い空間にくつろげるスペースを作りだしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチ、イスを所々に配置し、思い思いに過ごしたり、ご入居者同士のコミュニケーションを図れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や大切にしていた物を自由に持ち込んで頂き、安心して生活できるようにしている。	居室は、入口に色とりどりののれんが掛けられ、表札も手作りのものが並んでいる。仏壇、長年使っている道具類などを自由に持込み、その人らしいくつろげる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物の内部は段差をなくし、安全に努めている。また、リビング、テラス等、自由に過ごして頂けるスペースが多くある。 ・包丁や針等は、見守りの元、その方の能力に応じ安心して使用して頂ける様支援している。		